教育の協働を推進する人材育成とネットワーク化の試み
～「協育」アドバイザー養成講座の実践から～

中川忠宣（高等教育開発センター）

【要旨】
子どもたちをめぐる様々な課題への対応、将来の地域を担う子どもの育成への期待を受けて、平成 18 年 12 月の教育基本法の第 13 条において、これまで言われて続けた「教育の協働」を法律で定めたということの意義は大きいものである考えている。国は改正教育基本法を受けて、平成 20 年度から「学校支援地域本部事業」を実施し、その中核となる「コーディネーターの配置」を推進してきた。大分県においても、それ以前の平成 17 年度から県単独事業として、コーディネーターの配置を中核としたモデル的な事業（「地域協育振興モデル事業」）を県内 4 市で実施していた。こうした事業が「施策」として徐々に定着しつつある中、本報告は大分大学高等教育開発センター（以下「本センター」という。）が平成 21 年度から実施した、地域の指導的立場にある者を対象に、より高度なコーディネート力（アドバイザーとしての力量）を養成するための研修事業と、その修了者のネットワーク化に関するものである。

Ⅰ　はじめに

大分県教育委員会は、平成 17 年度から県単独事業として「地域協育振興モデル事業」を実施すると共に、平成 18 年 3 月に「地域協育振興のためのＱ＆Ａ」を作成して、本施策を推進するための考え方を整理した。さらに、その推進方策として、モデル事業の成果や大分県社会教育委員による答申などを背景に「地域協育振興プラン」を作成し、全県的な普及を推進しようとした。そうした中、国は平成 20 年度から「学校支援地域本部事業」において「地域協育振興プラン」と同趣旨の施策を展開することとなり、本県の取り組みを、その考え方及び予算面において後押しする形となった。その施策の中核は一定アリアにコーディネーターを配置するとともに、コーディネーターの資質の向上であり、そのことをとおした地域住民の子育て支援のシステムをつくることである。

本県においては、平成 15 年度に、教職員対象の「教育の協働」に関する研修を体系的に行うことを検討し、地域住民の教育力の活用に関する教職員の意識改革を図ってきたが、いざ、こうした取り組みを行おうとすると学校の閉鎖性、コーディネート機能の未熟さ等が浮き彫りになり、大きな課題となって見えてきた。現在においても、社会教育課（旧生涯学習課）がその施策を担い、コーディネーターの配置やその研修等を推進しているところである。

こうした本県の現状を踏まえ、平成 21 年度から本センターが実施した「協育」アドバイザー養成講座の概要と成果を報告することとする。

Ⅱ　『協育』アドバイザー養成講座の概要

１．講座の基本的な考え方

（１）趣旨

改正教育基本法や教育振興基本計画をふまえ家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを目的として「学校支援地域本部事業」が始まった。これまでは、家庭、学校、地域社会がそれぞれの取り組みとして行うことにとどまっており、もはや単独での取り組みは限界にきていると言わざるをえない状況であることから、家庭、学校、地域社会の相互の連携協力を促し、それぞれの教育力を向上させるとともに、教育を協働して行う必要性が明確になったと言える。これからの教育が、「青少年を育成する学校教育、社会教育、家庭教育の連携」、「家庭教育を支援するための福祉活動との連携」、「高齢者の生きがいを創出するための福祉活動との連携」等々、地域全体が連携協力して、縦割りの取り組みから、「横の接続」を促進する取り組みの重要性が認識されてきたと言える。

そこで、こうした取り組みに対して民間の教育力を発揮し、「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進するために、地域ぐるみでの学校や地域での子どもの健全育成や家庭教育への積極的な支援、福祉と教育の融合、及び大人社会の再構築を推進するコーディネーターの養成を行うことを目的として開講した。

さらに、修了者のネットワークを組織化し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援するとともに、受講生の活動情報の収集・分析や、「協育」コーディネーター育成プログラムの開発等によって、本県における「家庭、学校、地域社会の教育の協働」システムの構築を推進することを目的としている。

（２）主催　　大分大学高等教育開発センター

（３）内容・時期

①（基礎編）「協育」アドバイザー基礎研修：11月頃実施する。

②（中級編）「協育」アドバイザー専門研修：基礎編修了者で希望する者を対象に３月頃実施する。

③（上級編）「協育」アドバイザー実践研修：基礎編・中級編修了者で希望する者を対象に次年度の９月頃実施する。

（４）対象者

・学校や地域における各種コーディネーター

・各種団体・グループ、ＮＰＯ等の活動者

・社会教育主事等社会教育関係職員及び指導主事等学校教育関係職員

・その他、趣旨に賛同し職場及び地域等において受講したことを活用できる者　等

（５）修了証

各コースの講座を受講した者には、コースごとに大分大学学長の修了証を授与する。

（６）経費

教材、先進地視察に係る交通費等の実費を徴収する。

（７）申し込み（問合せ）方法

①受　付：郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原７００番地　大分大学教育支援課（公開講座担当）

（８）修了者のネットワーク化

修了者が、それぞれの職場や地域での日常的な活動を充実するための活動情報の収集・提供、それぞれの活動の情報交換、及び各種研修、モデル事業の実施、県内活動組織のネットワークの促進等を行うために「大分『協育』アドバイザーネット」を組織する。

２．二期生を対象とした各講座の概要（平成22年度～23年度実施）

（１）（基礎編）「協育」アドバイザー基礎研修

①研修の概要

趣旨

子どもは人間社会（地域社会）で教育され、「子ども自身が生き方を学ぶ」（キャリア教育）ための様々な教育活動や生きた体験が求められている。そのために家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの生きた教育活動支援が重要となっている。

基礎編では、各種事例を通して教育の協働を推進する中核的な人材（コーディネーター）の必要性を理解すると共に、コーディネーターに必要な資質について学ぶ。

日時　平成２２年１１月１３日（土）９：００開講　～　１６：３０閉講

＝講座の内容＝

研修１：キャリア教育(子どもの生き方の学び）についての基礎知識

１．我が国の社会・産業の現状と課題

２．「キャリア教育」「キャリア教育支援」「キャリア教育コーディネーター」の意味

３．本研修が目指す方向としての我が国のキャリア教育の現状と課題

研修２：地域におけるキャリア教育(子どもの生き方の学び）及び支援の実践

１．キャリア教育に関わる全国的な取り組み状況

２．キャリア教育と学校教育・社会教育

研修３：キャリア教育コーディネーターの機能と役割

１．コーディネーターの機能

２．キャリア教育コーディネーターの役割

研修４：学校と地域・企業等とのネットワーク構築方法

１．コーディネーターの業務

２．地域における人的ネットワーク構築の必要性

３．コーディネーターのネットワーク化

②受講者のアンケート（受講者：28名）

☆参加者の内訳

各種コーディネーター	自治会関係者	地域活動関係者	行政関係者	教職員	ＰＴＡ等団体関係者	その他
2	1	１４	1	6	2	2

☆研修成果について。

プログラム名	項目	とても そう思う	まあ そう思う	あまり 思わない	全く 思わな
キャリア教育についての基礎知識	内容について理解できた	１８	9	0	0
地域の雇用や産業等の現状	内容について理解できた	１２	１３	2	0
キャリア教育コーディネーターの業務と役割	内容について理解できた	１５	１１	1	0
ワークショップ	内容について理解できた	１５	１２	0	0

☆この講座の前と後で、キャリア教育に対する考え方に変化がありましたか。

○教師自身、コーディネーター自身が勇気をもって諦めず人と関わろうとし続けることが大切だと思った。頭をやわらかくして、物事を見ることの大切さも改めて感じた。

○講座を受ける前はとても難しいことのように思っていたが、講座を受けてみて私たちの身近なところでも行われていると思った。

○アドバイザーのますますの重要性を認識した。ただし、教育行政のトップや首長がキャリア教育に対する認識を深めていくような働きかけをどうしたらよいのだとうという課題が生じてきた。

○キャリアとは「キャリア」「ノンキャリア」という理解が強かったが、生きる力、つなぐ力、伝える力、知ろうとする力と言い換えると分かりやすくなった。しかし、個人の努力や奮斗に帰結することには疑問がある。

○児童、生徒の“やる気”を引き出す為の体験と教科学習のリンクが大切であるとの考えを裏付けしていただいた。

○キャリア教育に対して偏見を持っていた。放課後子ども教室にくる子供たちの中で「生きることに冷めている」ようなびっくりするような対話（会話）に直面し、中途半端で面倒なことには目をそらす。そういう状況を見たので、なぜ「キャリア教育」が必要なのかを実感した。

☆コーディネーターの必要性や役割について

○今回改めて知ったのは、コーディネーターが全てをするのでなく、発信・計画などをしながら進めていくということでした。

○コーディネーターの必要性を感じた。そのコーディネーターが学校に提案していく、コミュニケーション能力の必要性も感じた。
○コーディネーターとして現実にその存在や意義が生かされているとは言い難い状況がある。行政もおよび腰、一般の方も大きくものをとらえることに不慣れな面もあるようで、認識を深めていくことがとりあえずの方法でしょうか。
○一生においてめぐりあえる人は限られている。しかし、コーディネーターの人の活動が広がれば、より多くの人との出会いができ、その人たちの知識や人間性の素晴らしを広め、多くの人がそのことに触れることができ、すばらしいことだと思う。
○必要性については、理解もし共感もできたが、教育の一助をするという責任の大きさに比べ有事での責任のとり方等今一つ腑に落ちない点があった。

☆学んだこと、感じたこと、今後の活動に生かせそうなことなど

○現在の活動に加え“ほんもの”を子供たちに届けられるよう企画力、提案力を身につけていこうと思った。
○県内各市町村の生涯学習（社会教育）関係者が受講すれば役に立つのにと思った。
○今まで考えてみなかった…というより、気づけなかったコーディネーターという存在を知ることができ、自分自身、一つ大きく成長できたかな？。できるきっかけがあり、とてもうれしく思う。今日の講座がどう自分の中で生かされていくか、今はかすかしか見えないが、でも是非、何かに参加していきたい。
○講師の先生方のエネルギーをいただき、私にも何かできるのではないかという気持ちになった。資源の中に「人材」の重要性を強く感じたし、そのためにも、人とのつながりを広め深めるよう心掛けていきたいと思う。
○誰かがしてくれるのではなく、自分の体を通じて子育て活動したい。
○自治会組織の中での子供会－ PTA －学校の繋がりを強化していきたい。自分でできることは小さく少ないが、企業 OB としての連絡活性力を地域に根付かせたい。
○昔はふつうに声かけしたり、叱ったり、ほめたり、遊んだり、ご近所同士でやっていたことが、時代の流れでこんな苦労するんだと思った。講師はどなたも熱意あふれるものですごかった。
○もっと研修を受けたい。継続的に学校に入り、学校のカリキュラムの中で計画を立て、実践していきたいと思った。活動の立場がほしい。総合案内所としての役割を果たすことができるよう経験を積み重ねていこうと思った。

☆今後の講座の内容について

○県内、県外の先進的な事例をもっと多く学びたい。
○大分における生涯学習、社会教育の実態は、九州各県と比べてどうなのか。全国的にはどうなのか。大分における生涯学習、社会教育の過去、現在、未来について知りたい。
○「村おこし」「街おこし」等の活動との関係を知りたい。
○学校側の要望、要請などを具体的に知りたい。
○企画書を作成するためのポイント、手順を学びたい。

（２）（中級編）「協育」アドバイザー専門研修

趣旨

家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの健全育成や、家庭教育への積極的な支援を行う体制の整備のため、その中核的な人材の養成を行うための専門的な研修を実施する。

中級編では、家庭、学校、地域社会の現状を学び、コーディネート能力の養成のための、様々な活動に関するプログラム企画力を養成し、提案し、実践するためのスキルの向上を図ることを目的とする。

期日　　平成２３年３月１９日（土）・２０日（日）

＝講座の内容＝

	時間	内　　容
一日目	9:00 ～	開講式（挨拶・説明）
	9:20 ～ 11:20	講義１　家庭教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師　大分大学教育福祉科学部教授　山岸治男
	11:30 ～ 14:20	講義２　地域社会の現状・課題と教育の協働の視点 講師　大分大学高等教育開発センター准教授　岡田正彦
	14:30 ～ 16:30	講義３　学校教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師　大分大学教育福祉科学部教授　山崎清男 ※事例発表　佐伯市立蒲江小学校教諭　伊東俊昭
二日目	9:00 ～ 14:00	講義４　子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際 ～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～ 講師　特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長　生重幸恵氏 講義５　身近なエリアの人を巻き込んで企画する「子どものためのプログラム」作成 （演習）講師　特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長　生重幸恵氏 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク　井上尚子氏
	14:10 ～ 16:10	講義６　「協育」アドバイザーとしての基礎的スキルの学び （演習）講師　大分大学高等教育開発センター教授　中川忠宣
	16:20 ～	閉講式（修了証授与・アンケート等）

②受講者のアンケート（受講者：25名）

☆今後、職場や団体、地域でどう生かしていくか

○今回の受講でもっと地元の団体を知っておく必要性を強く感じた。今後の活動を行う上で自らの活動の幅を広げていこうと思っている。

○２日間学んだことを自身が取り組んでいるサークル活動に生かしたいと思った。特に協力者の拡大等について取り組んでいきたい。

○演習で意見を出し合ったが、視点の違い、理解の差があり討論の難しさを改めて感じた。地域で実際に進めていくためには、細かな打ち合わせ、共通理解が必要であると思う。

○具体的な事例を挙げて話をしていただいたので明日からの元気をもらった。今後の事業の展開に非常に参考になった。中学生の自主サークルで高齢者との交流の話は大変興味があった。具現化できないか各方面の方々（協力団体、教委、学校）に相談したい。

○教育現場の様子がよく分かったので、どのような持ち込み方でわが町が動くのかを考えたい。

○ニーズの掘り起こしを積極的に行い、学校支援につなげられるよう人材の掘り起こしと名簿等の作成も行いたい。

○今まで受け身であったＰＴＡ活動を“活動発進”に変えていき、ＰＴＡの役割を生かしていけるよう取り組んでいきたいと思った。その取り組んでいくスタートがはっきりと見え、何から取り組んでいくかも見えてきたので４月スタートに準備していきたい。“３つの協育”をうまく構成して取り組んでいきたい。

○次年度から地元の公共図書館と学校図書館への情報提供をすることになったので、図書館と学校だけの関わりに止めるのはもったいない気がしてきた。お話ボランティアの方たちとも連携を持っていけそうな思いが出来た。

☆今後の講座の内容について

○現場の先生方のニーズについて生の声や職場教育との結びつけの事例など、すばらしい取り組みをたくさん聞きたい。

○学校教育の中に素人の住民が関わって良いのか、どう関わることを求めているのかについて学校の考え方を知りたい。

○各自治体でどのような取り組みがなされているのか、現状と今後の方向についての情報を知りたい（より詳細な）。

（３）（上級編）「協育」アドバイザー実践研修

趣旨

本研修は『協育』アドバイザー養成講座の基礎編・中級編の修了生を対象に、県内外での「教育の協働」を推進・実践する先進地を視察し、地域づくりや青少年の健全育成に関する中心的指導者・コーディネーターとしての資質を向上し、以て、「教育の協働」の推進に関するアドバイスの力量を高めることを目的とする。

期日　平成２３年９月２７日（火）～２８日（水）

＝視察先＝

○財団法人山口県ひとづくり財団　県民学習部「生涯学習推進センター」
（山口県山口市秋穂二島１０６１）

☆山口県民の学びを支援すると共に、「人づくり・地域づくりフォーラム」を開催し地域活動リーダーの育成を行う等、県民の生涯学習・社会教育活動の推進状況について学びます。

○山口市鋳銭司小学校　　（山口県山口市大字鋳銭司）

☆平成２１年度から先導的に取り組み始めた、地域住民が学校教育にどうか関わり、支援していくかというコミュニティースクールの取り組みについて学びます。

☆その他

○本研修終了後に、「研修レポート」を提出する

②受講者のアンケート（受講者：8名）

☆県民学習部「生涯学習推進センター」から学んだこと

・セミナーセンターとして、研修事業を１箇所に集約しているという施設規模のすごさにびっくりと同時にうらやましさを感じる。

・人づくり地域づくりフォーラムは篠栗、国東とプログラムの差はあるだろうが、同様なフォーラムが開催されていて、全都道府県の参加を促す工夫、努力されている様子が良く伝わった。いずれにしても、山口県が社会教育・生涯学習として進歩的であることがうかがえる。

・センターが一元化、一箇所化されていることは、全世代間、全ジャンル間の情報がそこに集約されていて、情報の共有や活用や協働が円滑に行われるのであろうと察した。

・昨年は、１年生として福岡方面を視察・研修、今年はＯＢとして参加したわけだが、１年間の蓄積を今回の研修とどう結び付くか、そんなことも考えて参加したが、昨年に比べて、「見える、理解できる」を感じた。１年の時間が無駄になっていない思いである。ＯＢとして参加することの意義を伝えたい。また、「協育」ネットの将来像、目標像を見た思いを強く持ったものである。大分県頑張れの気持と、我々「協育」ネットの使命感、夢を改めて抱くことになった。

☆山口市立鋳銭司小学校から学んだこと

・学校長をはじめとする教職員が、積極的に地域ボランティアを受け入れているが、まずは、校長自ら地域に出向き地域資源の活用の必要性を訴えたことで、地域の方にも思いが伝わりやすかったのではないかと考える。

・無償のボランティアであるが、子どもから元気をもらえ、学校に来る楽しみがあるというボランティアさんの言葉が印象的だった。

・授業の中で、担任の先生とボランティアさん

の役割分担ができており、児童も自然に受け入れているのはとても素晴らしい。

☆今回の視察研修から学んだことで、今後の自分の活動に活かしたいこと

Ａさん：「協育」も「協働」も一人ではできない。たくさんの〔力〕が集まるからこそ子どもに地域に多くの笑顔や喜びが生まれ自分も〔力〕の出せる、活かせる人になるよう前進・前進で努めていきたいと思います。その中で、今、一番身近な学校で学習支援活動の素晴らしさを伝えたり自分自身も関わっていける場を見つけ取り組んでいきたいと思います。

Ｂさん：学校・地域の向上に自分の知識・経験および経歴で何が出来るのか？の自問自省だけでは何も生まれず変革は望めない。このような姿勢は既存組織が旧例にない・人手がない・予算がない etc 等々の理由から、変革を受け入れない事と同次元の問題ある。自分は何に興味が有るのか、そしてこれをしたい、との強い思いが基本にあって行動することが大切であり、改革（大層な表現であるが）の第一歩となると学んだ。

退職老人である同期生の集まりを、愚痴・不満の発露の場だけにとどめず、集約し行動する集団にしてみようと考え始めている。退職老人の性として、何か協働でしようとすると何のために・誰が・何を・何時までにするのか等々詳細を確定しなければ行動しないし、出来ないとするだろうが（今までの事例からも―）。この意識の変革は頑迷な老人だけに難しく、最初から全員一致は望めないものと考える。

Ｃさん：２つの研修は身近な問題としてすでに見聞していましたが、今回の研修はきちんとした質疑応答時間を持っていただいたことによって、問題を打開していくためには「人」を養成するシステムつくりが重要であることという理解に繋がったと思います。また、参加したメンバーのみなさんと打ち解けて、親しくお話しさせていただいたことが大変刺激となりました。今後の活動をするうえで、個人の活動の努力と共に行政などの組織と連携をとりたいと思う時、この「協育」アドバイザーからの支援があれば心強いのではないかと思いました。

Ⅲ　研修生のネットワーク化

１．ＮＰＯ法人大分県「協育」アドバイザーネットの目的

ＮＰＯ法人大分県「協育」アドバイザーネットは、市民・企業・団体・教育機関などと一層協力しながら『協育』の推進をめざし、その啓発と普及・調査研究・相談支援などに関する事業を行うとともに、県内各地で取り組まれている様々な『協育』実践を交流し合い・重ね合い・深め合い・広め合うために平成23年12月７日に設立された。

このことにより、従来にも増して、学校と家庭と地域における総合的な『協育』力の活性化とネットワーク化をめざし、幼児・児童・生徒の体力・学力の向上はもちろん、生きる力を育てるキャリア教育に関するコーディネート支援もおこなう事としている。更に、

平成23年12月18日には、全県的なネットワークづくりをめざした大分県『協育』ネットワーク協議会の設立に伴ってその事務局を担う事となり、新しい公共の担い手づくり、新しいパートナーづくり、新しいアドバイザーづくりをめざして活動を行うこととしている。

【会員数】（正会員・特別会員・賛助会員の合計人数）H24.3末現在

第一期生	第二期生	第三期生	総会員数
１５名	１５名	３１名	６１名

２．事業内容

事業の柱は３つで、その内容は次の通りである。

（１）人材育成事業

①「協育」アドバイザーを育成する事業を行う。

②「協育」コーディネーターの交流を促進する事業を行う。

③学習ボランティアを育成する事業を行う。

④研修事業への積極的な参画を行う。

（２）普及・実践事業

①教育の協働を広げるためのコンサルティング事業を行う。

②「協育」推進事業＝教育の協働を推進するための活動＝

○「教育の協働」を推進するためのモデル的な事業を行う。

○現代の課題に対応して「協育」という視点からのプロジェク的な事業を行う。

○青少年の自然体験・生活体験や地域発見型体験活動など「協育」という視点からのプログラム開発事業を行う。

○「教育の協働」という目的を同じにする事業との積極的な連携・共催を行う。

（３）研究・啓発事業

①「教育の協働」の推進に関する調査等を行う。

②「教育の協働」普及本やＱ＆Ａなどの資料等を作成・発刊する。

③ＮＰＯ法人大分県「協育」アドバイザーネットの活動に関するＰＲ活動を行う。

Ⅳ　成果と課題

各地域で「協育」の柱となるコーディネーターとして活躍する方々と協働で活動するために、アドバイスできる力量を養成することと、活動のシステムづくりを進めることの重要性が認識できた。県内の様々な組織のネットワーク化の取り組みは始まったばかりであることや、本講座の受講生の活動分野や活動へのスタンスの違い、地域からの要請の不透明さ、地域の様々な組織の縦割り事業という現状等から、今後とも、継続した全県的なコーディネーターの養成とネットワーク化が必要であり、ホームページを活用した啓発を行いつつ、県内広域なネットワークを張るための本講座の充実を図っていきたい。さらに、ＮＰＯ法人大分県「協育」アドバイザーネットが、地域の様々な組織のネットワーク化の中核として活動をするための支援も、本センターの役割であることを認識し、更なる支援を行っていきたいと考えている。